

## 『自分のため』から『選手のため』に

「選手と一緒に駆け上がりながら、ルールに則って試合をスムーズに進行させることがサッカーの審判の大事な役割です。判定一つで試合の流れが変わるため、責任も大きいですが、一試合一試合ともやりがいがあります」と審判の魅力を教えてくださいました志村さん。

小学1年生からサッカーと出会い、「ルールをしっかり覚えれば、サッカーも上達するし、もつと楽しくなる」という父の勧めで、中学1年生のときに『サッカー4級審判員』の資格を取得。高校でもサッカー部に所属し、選手として練習に励む一方、『3級審判員』の資格を取得した志村さんは、室蘭地区の社会人リーグやシニアリーグなどの大会で審判をする機会が増えたと言います。

審判を続けていくうちに「よりレベルの高い試合の審判をしてみたい」と思うようになった志村さん。さらに上の審判員の資格を取得するため、数多くの大会で審判の経験を積み重ねながら、本格的に勉強を始め、3年生のときに、地域サッカー協会が主催する試合で主審をすることができる『2級



▲毅然とした態度でプレーを見守る志村さん

審判員』の資格を取得しました。平成30年10月に、『全日本高等学校女子サッカー選手権北海道地域大会』で2級審判員として主審を務めた志村さん。「一生懸命プレーしている選手のために、堂々と毅然とした態度で、公平な審判をすることを心掛けました。これまでの経験を生かすことができましたと思います」。

## またいつか、ふるさとで

「春から札幌の大学に進学しますが、これからもサッカーに関わっていき、選手から信頼される審判になりたいです。そして、いつの日か登別に帰ってきたときに、これまでお世話になってきた人たちへの恩返しができれば」と志村さんは審判として選手たちの試合を支えていきます。

# き ら り

KIRARI

し むら けい すけ  
志村 奎祐さん(幌別町)

数々の審判の実績を積み、都道府県サッカー協会から推薦を受けた者だけが受験することができる『サッカー2級審判員』は、高校生で取得している人は全国的にも少ないなか、平成30年7月に高校3年生で資格を取得した志村さん。

今号では、サッカーの審判の魅力や思いについて、志村さんに話を伺いました。

## 選手に信頼される審判になりたい



平成12年、登別市生まれ。18歳。

小学1年生からサッカーをはじめ、小・中学生のときはクラブチームに所属。北海道登別青嶺高等学校に進学後もサッカーに一筋で、高校在学中に2級審判員の資格を取得。